

第8回香美市立図書館及び美術館収蔵庫建設等検討委員会

平成29年6月20日 19:00～

本庁3階会議室

出席委員：中村直人委員長・濱田正彦副委員長・山本恭弘副委員長

奥野克仁委員・岡花瞳委員・野村貴子委員・野村文紀委員・濱田久美子委員
山重壯一委員・町田由岐子委員・大岸真弓委員・岡林良浩委員・山本祥子委員
依光美代子委員・内田純一委員・式地美智委員・仙波美由記委員

事務局：時久恵子教育長・野島恵一次長・岡本博章課長・和田小百合班長・依光静代・山下聡
都築房子館長・松岡可奈・佐竹慶子館長・井上恵子

CM：日建設計 森健一・安岡威

教育長あいさつ

委員長

事務局から、詳しい流れの説明と審議事項の説明を。

CM

前回の建設等検討委員会の概要の振り返りをさせていただきます。まず事務局のほうから図書館の敷地については選定経緯が適切でなかったため白紙撤回し、選定をやり直すこととなったという説明がありました。これまでの用地選定の経緯についての説明及び新たな用地選定の手法について提案を行い、了承をいただきました。今後につきましては建設等検討委員会から選出された委員で組織する建設位置検討部会にて評価方法などを決定し、個別評価も行うということで決定しました。最終の選定につきましては教育委員会が行うということになっております。

透明性の確保と市民意見の反映ということを大きな柱に、大きいマクロ視点と小さいマイクロ視点から適正な用地選定を目指すこととしました。7月末に評価し8月末の選定を目指して今作業をしております。

市民意見の反映として市民アンケートを計画していることをご報告させていただきました。4月25日はパブリックコメントへの回答内容についてご報告をさせていただいて、その内容に沿ってパブリックコメントの回答をHPに掲載しております。前回の振り返りは以上の内容となっております。

つづきまして、建設位置検討部会の進捗報告をさせていただきます。前回ご報告をしました用地選定についてのロードマップということで、大きな視点としまして都市計画であるとかまちづくりの整理についてご意見をいただき、それについて議論をしていくという流れを進めております。それとともに個別の土地についての評価をどうやっていくかということで、この評価方法について検討部会で細かく議論をしています。この本委員会が始まる前に建設位置検討部会をさせていただいて評価方法の詳細につきましてはほぼ本日決定させていただいて、それを整理して、来週以降に調整をするということになっております。それと並行して候補となる敷地を事務局で選定をしましてその情報を基に、まず売却意志の確認であるとか建物のボリュームとか工程についての検証をして、それを基に議論した評価方法によってそれぞれの土地について評価をするというようなかたちにする予定です。

全体のエリアの適正化についてはほぼ意見を集約しており、これについては後ほど、7月30日に予定している市民懇談会で市民のご意見をお聞きすべく説明をさせていただきたいと思っています。この市民懇談会とか評

価を受けて教育委員会で最終決定をしていただいて、最終の候補地の選定が9月の上旬を目指して作業をしているという状況です。用地選定のあり方としましては、大きな視点、まちづくりの視点や都市計画の視点からふさわしいエリアを考えるということと、個々に土地の情報が出てきますので、まずはそれを正しく評価する方法を議論していきまして、出てきた土地についていろいろと個別に検証して、その二つを足し合わせて香美市の図書館として最もふさわしい敷地を選定していくということで考えております。

つづきまして、今、建設位置検討部会で議論している内容としては、どういうエリアに建つべきかというところですが、今後香美市は人口減少するという状況が起きるのでその中で居住地域を定めて人を集めるというダウンゾーニングという方法で都市計画が行われるというのが大きな流れになっています。市街地を、人が住むところをできるだけ縮小して集まって住みましょうという考え方ですが、これから必ずそうなりますので市街化調整区域というような市街化を調整するようなところは図書館の中心地としては建設すべきでないのかと。図書館など公共福祉施設は市街地の起爆剤とするという考え方もありますが、そうではなくて、居住を誘導するエリアの中心にあるべきというのが、議論をした結果となっています。

あとは、中央館という言い方もあるのですが、中央館というのはエリアの中央、地理的な中央という誤解があるのですが、そういう意味合いの建物を計画しているのではなく、本プロジェクトにて計画している図書館というのはあくまでも香美市の図書館の中の機能的な本館という考えをしております。ですから場所としては重心というか、真ん中ではなく、機能的に適した場所に計画をしましょうという議論になっています。あと、都市計画の話からいきますと、今後はあけぼの街道が主要幹線道路になっていくということなのでそこからの位置、近いか遠いか、使いやすい場所なのかということなどを重視しながら検討して評価をすべきということを議論してきました。そのほかとしまして、美術館収蔵庫の合築については再検討すべきというご意見がありました。あとは図書館の相互関係、本館と分館、香北と物部の図書館との関係性についてももう少し議論すべきというご意見が、都市計画等の中でありました。広域検討につきましてはこういう内容で進捗をしています。

この考え方の基本になっているのが、2004年に策定されました合併前の土佐山田町の都市計画のマスタープランです。これは合併を念頭に置いた土佐山田町時代のもので、当然改定をされる予定があるというものになっています。こちらの赤の部分が駅を中心とした中心市街地形成ゾーンで、この中心に近いほど香美市としては中心市街地であるという考え方をもって、このマスタープランは作られています。それとともに香美市の都市計画図としては、色がついているところが市街化区域・都市計画区域になっていて、赤いところが商業地域、オレンジが近隣商業地域、黄色いところが基本的には人が住むところ住居系の地域になっています。この真ん中あたりがやはり同じように用途地域指定がされているということで、先ほどの考え方も照らし合わせて、基本的には市街化区域の中心地に近いほうが適している場所かということが建設位置検討部会の中での広域エリアの評価になっております。

進捗報告としては、この広域の検討と合わせて、狭域となる個別評価方法の検討ということで、細かいのでここではすべてはご紹介しませんが、こういうかたちで用地に関するだいたい100項目くらいあげて評価をすることにしています。例えばこの用地だったらNGにします、この要件を満たしていなければNGにしますという評価の仕方にするのか、マイナス2段階評価、マイナス1点マイナス2点とするのか、評価の仕方にもいろいろあるのですが、今回ものすごくたくさんの候補地が出てくるとは考えにくいのである程度はNGで切ってしまうのではなく、点数をつけて評価をしていこうと考えています。先ほどの建設位置検討部会では、これを最終的には100項目くらいあるのを6項目くらいに集約して、それぞれに良いところ悪いところを全部レポートして評価をします。点数も一応つけはしますが、点数をつけてしまうともものすごく良いところものすごく悪いところということが消えてしまう、個性が埋没化してしまうので、それとともにレポートもつけておくというかたちで、さらに点数の評価については各項目ごとに部会の皆様全員で合議しながら点数をつけていくことにしています。

先ほどのスケジュールでいくと7月末くらいから候補敷地の条件が出揃ったところから評価方法に基づいて

部会で評価をして評価結果を出していこうと思っています。その評価結果を教育委員会へ渡して、教育委員会で最終的にご選定をいただくという流れを目指しております。何かご質問等ありますでしょうか。

委員

広域検討の中のその他のところで、美術館収蔵庫の合築については再検討すべきという意見があったようですが、こういうご意見というのは根強くあるのでしょうか。それで最後のほうで出てくるプラザ八王子のほうでできないかという検討につながったのでしょうか。

CM

はい、今回の広域検討にあたっては、先ほどのマスタープランを作っていたいただいたまちづくり計画学の先生のご意見等もお聞きしました。その中で今までの議論をご存知じゃないこともありましたけれど、逆に言うともう第三者的な視点から合築についてはなぜかという話もあったりして、分館と本館について、これは分館と本館だけじゃなくて、例えば千葉のあたりですと、サテライト図書館のような形態がいっぱいあるのです。店舗の開きスペースを使って図書スペースをつくるとか、そういうかたちもあるのではないかという問題提起をいただいたので、今まで話が進んでいる中で既成概念としてはこうなっていると思ってしまっていたところが、そういうご意見もあったので書き足しているということです。

委員長

まちづくり計画学の先生の見解をお聞きしたというところで言うと、彼が一番主張していたのは香美市には公共施設の全体をマネジメントする協議会があるのですが、そこがあまり機能していないのであらゆる公共施設を全体としてどういうふうに効率的に配置するかというようなことを考えながら運営することが必要じゃないかという意見があったのです。当然のことなので、位置の検討の件でもそういう観点は含めながら考えていくということで話を進めています。

委員

みんなが疑問に思っているところは、開かれた場所・人が集まる場所と閉じられた収蔵という場所が一緒になっていることに対して非常にクエスチョンマークが最初からついているわけです。開かれたところが一緒になるのなら構わないけれど、閉じられたところと一緒にするのはどうしてもおかしいという意見ですね。

CM

今回、検討委員会のほうにご提案させていただくのは、あくまでひとつの方法として合築ではない方向もあるということで、完全に決めてしまわずにいろんなことを考えましょうということです。

用地については土地が出てきて、土地に対して検討していくという段階になってきております。実際にはまちづくり計画学の先生からももう少し時間をかけてしっかりと土地を検討し、決まった土地を踏まえて基本計画をしっかり練るべきだというご意見もありましたので、そのへんも踏まえて基本計画の練り直しを並行して検討したいと思っています。

続きまして、アンケート調査の中間報告をさせていただきます。アンケートの実施につきまして、市民アンケートを現在行っております。主たる目的としては用地選定を見直しましたので市民意見の反映のために、市民意見の聴取を目的として実施をしております。内容としては用地に関することと、こちらの方がボリュームが大きくなってしまっていますが新図書館への希望であるとか既存図書館の利用状況などを聞くものになっております。方法としては1000件を無作為抽出して郵便配布をしています。あとは香美市のホームページにてWEBアンケートを行うとともに、小中高で配布をさせていただいて回収をするという方法をとっております。調査対

象としては、香美市民の1000人を無作為抽出と、小学生から高校生を約500人選んでおります。記載方法としては、選択式で自由記述式のものを、6月6日に発送しまして回答期限は6月末まででお願いしております。本日時点で1000通出して262通26%の回収率で目標は一応30%ですのでだいぶ追いついてくるかなと考えています。学校についてはほぼ100%返ってくるという見込みがありますので、今はまだ回収ができていませんけれどこの辺は出した分だけほぼ返ってくると思います。またお願いになりますが、ホームページがまだ少ない状態ですのでみなさまにご協力をお願いしたいと思います。だいたい7月を集計に当てさせていただいて8月くらいにご報告をするとともに、先ほどの評価項目等につきましてもいくつかお聞きしている内容がありますのでそれを加えることができれば加味して、最終の評価判定方法を決めていきたいと思っております。

続きまして、市民懇談会の開催についてですが、7月30日にこの場所で市民懇談会を予定しています。図書館建設用地の適正なエリアについてと、市民アンケート結果についてご報告をして、情報提供をするとともにワークショップでご意見をいただきたいと思っています。香美市側が今考えていることをお伝えするとともに、市民の皆さんにも一緒に考えていただいて図書館というものを一緒につくっていく考えです。この内容につきましては、まだどんなワークショップをやるというのは7月に考えまして、懇談会前の委員会でご説明をさせていただきたいと思っております。

それでは次の議題としまして、収蔵庫の計画につきまして先ほど意見としてあった、本計画では手狭になった美術館収蔵庫を新たに計画する図書館と合築する方針で検討を進めてきましたが、委員の方からもありましたように美術館と収蔵庫が別建物になることによって搬送の不具合があることと、人が集まる開いている図書館と、倉庫機能を主とする閉じている収蔵庫が、どうしても機能的に相反するということがありながら進めていて、まだこれはやめるというわけではないですが、そういう問題は抱えております。

そこで再度、美術館付近へ収蔵庫を設ける方法を検討しました。物理的な話だけを見ると、プラザ八王子の3階に多目的研修ホールがありまして、かなり天井が高くハイサイドライトで光が入って気持ちよい空間ですが、ここがちょうど200平米、収蔵庫として求められている規模とほぼ同じくらいです。メリットとしては、美術館の同じ建物内ですから収蔵品の移動にはストレスがないし、躯体がしっかりしているのでこの中に改修工事をすれば新設が可能となっています。実際に工事をどうするかというと、光が入ると収蔵庫としては適していないので光や外気が入らないようにこの中に入れ子で部屋を作るかたちになります。検討事項としましては、社会福祉協議会の方がこの下に入っているのいろいろな使用をされているので、現在のホールの使用用途をどうするかを当然議論しなければならないという状況があります。現在は年間300日くらい、体操教室や文化展、デッサン会、健康診断などに使われており基本的に利用頻度は高いです。あくまでも物理的な検討をしているだけで、ソフト的なところはこれから非常にハードルが高い調整をしていかなければいけないわけですが、先ほどの合築に対しての違和感というところから考えて、例えばということでこの物理的な検討をしています。建築的には法的にも高度的にも特に問題なく造ることはできるということで検討しております。何かここでご質問等ありますでしょうか。

委員

仮にその3階のホールが物理的に無理だとなった時にはどうなりますか。

CM

今まで通り図書館と合築がまずひとつあります。別棟で建てるということは今までの検討で難しいという検討結果になっているので、それでも別に造るのかというのは、別に造ればいいというものでもなく、美術館と一体空間の中で造ることに意義があってそれ以外のところで造るのであれば、あまり距離は関係ないかと思っておりますので、そのほかにというのは難しいかと。

委員

もし折り合いがついて3階ホールを使えるようになったとして、収蔵庫に求められている要件は満たせるということですか。

CM

現状、壁の中心で200平米くらいですので、それからもう一回入れ子状に部屋を作りますから、実際には185平米とか180平米とかになると思います。ただし実際は、200平米の収蔵庫が適正でそれがあれば十分なのかという話をされると、香美市の場合は郷土の作家の方がたくさんいらっしゃって寄付をされるので無尽蔵に作品が増えていくという事情がありますので、将来的にこれが適正かと言われるとそれはおそらくどこまでいっても適正ではないということです。今、八王子プラザ2階の収蔵庫はコンテナ状態です。物が出せない、押し込まれている状態、これを普通に展開するだけでも下手するとこれくらいの面積が必要になるかもしれないです。香美市のほうでいくつか分散して収蔵されているものもあり、それが適正かと言われるとなかなか難しい判断です。

委員

2階の収蔵庫からL字型にとるのは無理ですか。

事務局

以前1階2階について検討しましたが困難ということでした。

CM

2階は高さがあまりないです。香美市さんが収蔵されている作品は結構大きいものが多いこともあり、天井の高さがある程度とれないと、物理的にも難しいかと思います。

委員

その土地の件ですが、候補地所有者への売却意志確認ということで、現時点では進んでいるのでしょうか。用地選定ロードマップにもありますが、11候補地あるうちいくつかが進んでいるのか確認ができているのかわかれば教えてください。

委員

県立美術館収蔵庫の見学についてご意見が出ていまして、ご相談したところ受け入れ可能ということでしたので、参加するとか日程を調整したいと思いますが。

事務局

そのあたりはこちらで調整させていただきたいと思います。事務局からは以上です。

20:00 終了